能登

広報のと
No. 48
2009.2

2
平成21年

波並地区の伝統行事「扇祓い」が1月18日に行われました。子どもたちは、3枚の扇を円になるように付けた竹竿を持って家々を回り、玄関先で口上をうたいながらお祓いをしました。

広報のと　第48号
平成21年2月1日発行

■発行：能登町　■編集：広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町字宇出津新1字197番地1
☎：0768-62-1000㈹
能登町URL：http://www.town.noto.ishikawa.jp
E-メール：info@town.noto.lg.jp

つきづきつれづれ

～如月（きさらぎ）～

能登に恋した
抒情書家
室谷一柊（むろやいっしゅう）・朱琴（しゅきん）・文音（あやね）
が描く能登の12カ月

倚松根摩腰千年之翠満手
折梅花挿頭二月之雪落衣
まつのねによりかかり　こしをさすれば
せんねんのみどり　てにみち
うめのはなをおって　あたまにさせば
にがつのゆき　ころもにおつ

二月は
まだ寒さは去らず
着物を更にかさねて着たくなるので
衣更着
如月（きさらぎ）という

今年も
あなたがやって来た
キラキラ
輝きながら
ゆっくり降りてくる
そして
すべてを静かに抱みゆく

あなたもわたしも
一度は見上げる雪の空
あなたの心が笑っている
そんなふうに感じるわたしの心
なぜかほんのりあたたかい

自分がどう見るかで
人生という風景が変わる
能登の大地が教えてくれた
能登に来て
能登の地に生きる
わたしがわたしに
あなたがあなたに
もう一度出合うために

ふりやまない　この愛が
ありがとうの　この想いが
あなたの心に　とどきますように

このひとひらの雪と共に

朱琴

奥能登に抒情書家ありアトリエを五友宿（ごゆうじゅく）という

室谷一柊・朱琴・文音

平成18年、京都府美山町から能登町大箱に移住し、アトリエを構えた抒情書家。生活の中で探しあてた言葉をモチーフに作品を仕上げる。イギリスと能登を往復する文音（写真中）は、2月20日からイギリス・リバプールで能登の自然を表現した作品展を開く。

「広報のと」２月号の印刷費は一部当たり 31 円です。

PRINTED WITH SOY INK